

みんなあでつながる！ひろげる！地域のチカラ

プラットフォー

こ

う

ち

高知県社会福祉協議会広報誌

巻頭特集

解決しようよ みんなの課題

〜生きづらさを感じる人を見逃さない〜



2021
12月号
vol.2

contents

巻頭特集 解決しようよ みんなの課題 — 2
〜生きづらさを感じる人を見逃さない〜

ボランティア・NPO情報 てをつなGO! — 6
地域を支えるNPO!

シニアのちょっといい話 — 8
島元健三さん | 佐川かわせみクラブ

プラットこうち人 二宮康公さん — 10

高知県社協からのお知らせ — 11

市町村社会福祉協議会ご紹介 — 12
北川村社会福祉協議会





8050問題
 子どものひきこもりが長期化する一方で、親が高齢化している状態。
 80代の親と50代の子の世帯であることが多いことからこの名があり、往々にして収入や介護などの問題が発生します。



ゴミ屋敷
 高齢や心の病など何らかの理由により、ゴミを捨てることができず、家中がゴミで溢れている状態。
 家の中に生活する空間がほとんどなく、心身の健康の問題が発生しやすくなります。

巻頭特集

解決しようよ みんなの課題

～生きづらさを感じる人を見逃さない～



ヤングケアラー
 本来大人が担うべき家事や家族の世話を日常的に行っている18歳以下の子どものこと。
 ケアに追われて学業不振や不登校につながるケースもあるが、子ども本人はその状態を当たり前と思っているケースも多いといわれています。



ひきこもり
 仕事や学校に行くことなく家の自室にひきこもり、家族以外とはほとんど交流がない人の状態。
 職場や学校における人間関係、病気などがきっかけになるケースが多いようです。



多頭飼育崩壊
 犬や猫などのペットを飼育している飼主が飼育方法をうまくコントロールできず、頭数が異常に増えてしまい飼育ができなくなる状態。
 飼主、ペットともに衛生面、健康面の問題があるほか、経済的な問題も発生しやすい。



老老介護
 65歳以上の夫婦、親子、兄弟などのいずれかが介護を必要とし、もう一方が介護にあたる状態。
 介護する側も高齢であるため、体力的、精神的に大きな負担になりやすく、双方が認知症である場合などもあります。



発達障害
 生まれつきみられる脳の働き方の違いにより、幼児の頃から行動面や情緒面に特徴がある状態。
 人間関係に悩みを抱えたり、生きづらさを感じたりすることもあります。



多重債務
 消費者金融やクレジットカード会社など複数の業者から借金をして、返済が困難になっている状態。
 収入減や低収入により生活費が賄えなくなっていたり、支払能力を超える商品やサービスを購入していることなどが要因とされています。

増え続ける「生きづらさ」を感じる人たち

少子高齢化、人口減少が急速に進むなかで、これまで機能してきた地域や家族同士の助け合い、支え合いの機能が弱まってきています。

地域では一人暮らしや認知症の高齢者、さまざまな理由により生活が困窮している人、ひきこもり状態が続き家族以外の人との関わりを持たない人など、生活課題を抱え「生きづらさ」を感じている人たちが増えています。

これらさまざまな生活課題は複雑に絡み合い、一つの世帯で複数の生活課題を抱えてしまうといったケースも増えています。たとえば8050問題とゴミ屋敷、ひきこもりといった問題はしばしば同時に発生することが多く見られます。

縦割りに横糸を通す

これまで、こういった生活課題を解決するために設けられてきた制度やサービスは、いわゆる「縦割り」の考え方に基づいて「高齢者」や「障害者」「子ども」などのカテゴリ別に整備されてきました。

対象者の生活課題に合わせて制度やサービスを充実させる縦割り型は対象者の生活を支えていくために効率的・効果的なものですが、たとえばひとつの世帯に「認知症の高齢者」と「ひきこもりの子」が同居する親子などの場合には不十分な対応になってしまう可能性があります。

複合的な生活課題に対応していくためには、支援を必要とする対象者個人だけでなく対象者を含む世帯や地域との関係もしっかりと見つめ、従来の「縦割り」にしっかりと「横糸」を通していくことが重要です。

生きづらさを感じる人を見逃さない

私たち福祉関係者には、地域社会の中でその姿を見つけてづらくなりつつある「生きづらさを感じる人」たちを見逃さず、それらの人々が直面している課題を包括的に解決していくことが求められています。

そのためには、支援機関がそれぞれに支援するのではなく、地域住民や関係機関と力を合わせ、横へ横へと広がった「チーム」として対象者や対象世帯を支援していくことが必要です。



地域社会の中でこうした複雑化・複合化を見せる身近な生活課題は、人ごとではなくどのような家族、地域でも突然発生する可能性があります。

次のページでは、これらの課題をクリアすることを目指して、近隣住民や地域組織、専門機関がチームを組んで世帯の支援にあたった事例をご紹介します。今後ますます重要となる組織連携のあり方と具体的な支援方法を考えます。



概要

80代の母親と50代の息子は、父が数年前に死去したため、2人暮らしをしている。母親は認知症の症状が進み始め判断能力が低下している状況。息子は高校を卒業して県外の会社に就職したが、職場の人間関係で躓いたことから会社を辞めて、実家に戻り数年前からひきこもっている(近くのコンビニなどに出る程度)。これまでの経緯から発達障害も疑われるが、精神科への受診などはしたことがない。世帯収入は母親の年金のみで何とかやりくりしてきたが、適切な金銭管理が難しくなっている。家屋内はゴミ屋敷と化しており、このことに気付いた近隣住民から地区長、社会福祉協議会へと情報が繋がっていったケース。

課題

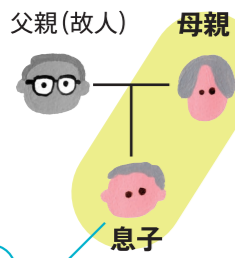
- 母親は認知症により家事ができなくなってきた。ゴミ出しもできていないため家じゅうがモノで溢れ、ゴミ屋敷化が進んでいる。
- 必要がないものを大量に購入するなど、適切な金銭管理ができなくなっている。
- 息子は家にひきこもっているため、人や社会とのつながりが希薄である。



8050問題に 直面する世帯を 支援する

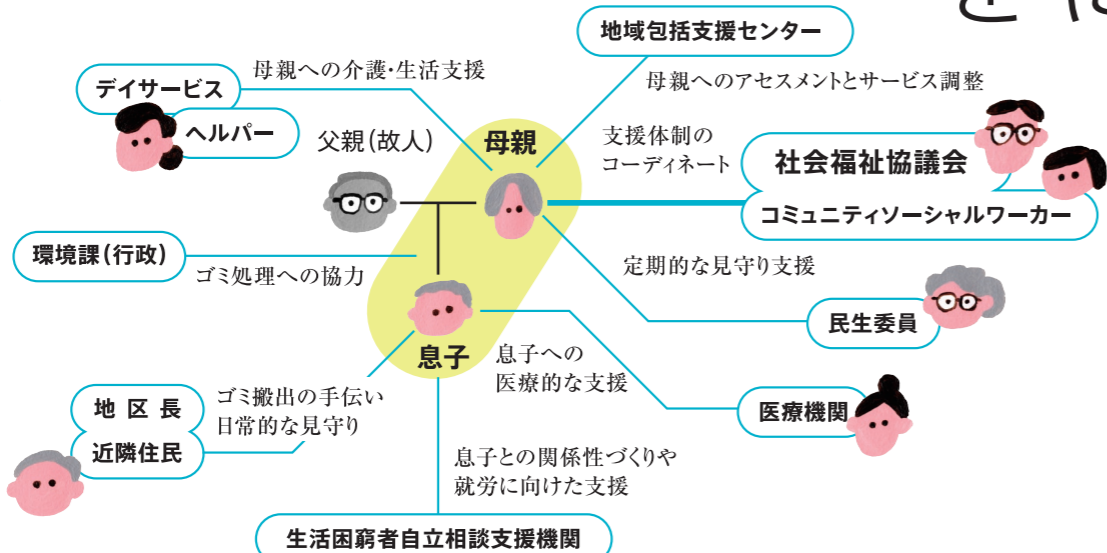
CASE 1

当初の状況



地区長
近隣住民

多機関が連携した世帯支援へ



- 社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーが地域住民を含む関係機関とのケース会議を開き、情報共有と課題整理に取り組んだ。
- 地区長の協力のもと、近隣の地域住民と社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー、行政環境課、地域の民生委員などが一体となってゴミ問題解決のために協働し、定期的な見守り体制やゴミ出し支援を地域で行うことができるようになった。
- 母親へのアプローチやアセスメントについては地域包括支援センターが担い、必要な福祉サービスにつなげた。息子とは定期的な訪問を通じて関係性をつくり、生活困窮者自立相談支援機関が中心となって社会参加や就労に向けた支援を実施した。

概要

40代前半の母親と2人の娘がいるひとり親世帯。小学生の次女は軽度の知的障害があり、母親に代わって中学生の長女がケアをし、その他家事なども多くを担っている。そのため、授業中の居眠りや宿題提出もないことが多く、学校を欠席することが多い。母親のパート収入と児童手当や児童扶養手当があるが、家計のやりくりで課題がみられる。長女の担当が家庭訪問をしたところ、本人がケアをしている様子がうかがえたことから直接話を聞き、状況を把握したケース。

課題

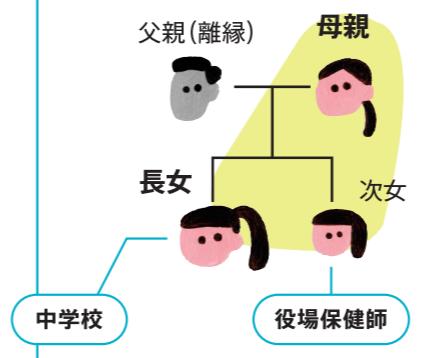
- 頼れる親族もおらず地域との関わりもなく生活課題を抱え込んでしまっている
- ひとり親家庭で母親は仕事に追われ、子どものことを考える余裕がない
- 長女は次女のケアや家事に追われているが、本人にはヤングケアラーとしての認識が少ない

日々の追われるヤングケアラーを支援する

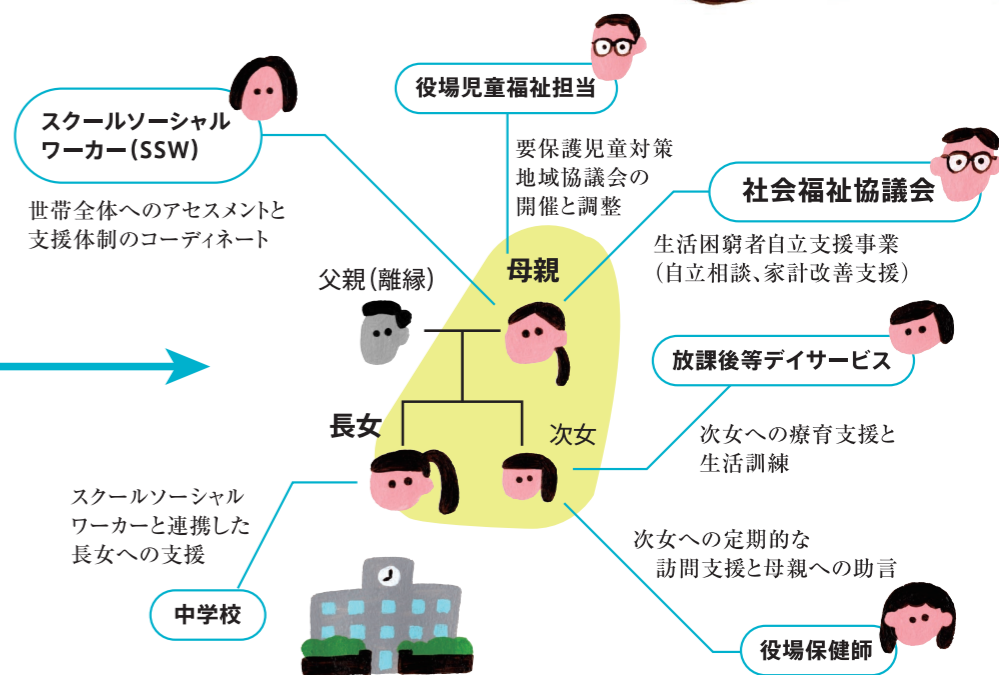
CASE 2



当初の状況



多機関が連携した世帯支援へ



- スクールソーシャルワーカーが中心となり世帯全体のアセスメントを行ったうえで、支援に関わる関係機関で要保護児童対策地域協議会を開催し、世帯の課題整理と支援の役割分担を行った。
- 長女と母親のそれぞれに個別面談を繰り返すことで信頼関係を構築し、課題やニーズを細かく引き出すことに努めた。学校や支援機関の存在が子育ての助けになることを実感してもらうことで、母親にも子供たちにも適した家庭環境の実現につなげた。

2つの事例から見てくる複合的な生活課題を抱える世帯の支援ポイント

1

○地域住民の気づきと参加による課題解決力の強化

CASE 1では、ゴミ問題に気づいた住民が社協と連携してゴミの搬出を手伝い、その後の定期的な見守りなどを継続的に行っていくことで、課題解決へとつながっていききました。地域住民が交流を深め、地域を知ることで、地域が抱える課題への気づきと解決へ向けた取組への参加が、課題の早期発見などの課題解決へとつながっていきます。

2

○多様な専門職による多機関協働

CASE 1の8050問題を抱える世帯は社協のコミュニティソーシャルワーカーが、CASE 2のヤングケアラーがいる世帯には、長女が通う中学校のスクールソーシャルワーカーがコーディネーターとなり、多職種・多機関が連携することで課題解決へとつながっていききました。コーディネーターが中心となって世帯全体をアセスメントし、課題を丸ごと受け止める横断的な体制を作り、地域とも協力しながら課題解決していく役割を担っていくことが必要です。

人も動物も見逃さない！ 地域を支えるNPO!



元ホームレスとの食事交流会



地域の中には、悩みや課題を抱えながらも様々な支援制度の対象にならず、「生きづらさ」を感じながら暮らしている人がいます。
たとえば、ホームレスや貧困にあえぐ方々はその典型でしょう。
そういった方たちをどのように支えていくかという問題は、私たちの社会へ問いかけられ続けている問題であるともいえます。
また、犬や猫などのペットにおいても多頭飼育崩壊をはじめとする問題があり、既存のサービスだけでは救いきれない命が多く存在しています。

今号では、そうした生きづらさを見逃さず、人も、動物も、誰もが住みやすい地域を作っていくための活動を展開しているNPOを2つ紹介します。

人と動物が
幸せに
暮らせる
ように！



月に1~2回開催する譲渡会の様子

生活困窮者を
幅広く
支援して
いきたい！

こうちネットホップ

代表・田中きよむ氏(☎090・7144・4394)

高知県内におけるホームレス支援と貧困問題を考えることを目的に設立された「こうちネットホップ」では、月1~2回程度のホームレスの方々の夜回りを行うとともに、貧困問題を考へる講演会を定期的に開催しています。

活動のきっかけは様々

「こうちネットホップ」の活動には、大学の教員や学生、市議会議員など様々な分野の方が参加しています。大学の講義で興味を持ったことをきっかけに、参加している吉村歩華さんは、初めは好奇心から活動でしたが、「支援活動に継続的に関わっていくことで実状を常に把握することが大切だと感じています。ホームレスの方との関係性を築けたことが活動の原動力となっています」と言います。

コミュニケーションの大切さ

ホームレスの方は寒い日も野外で休まざるを得ないなど、常に命の危険にさらされています。「こうちネットホップ」ではこうした立場にあるホームレスの方たちの声を聞き、必要な支援があれば行政・社協・市民活動団体などの関係機関と結びつけるというスタンスで活動しています。田中さんは「押しつけはしません。本人

NPO法人 アニマルサポート高知家

代表・吉本由美氏(☎090・1323・9874)

人と動物が幸せに暮らせる社会を目指し、動物に関する相談支援や保護された犬猫と新しい家族をつなぐ譲渡会の開催などを行うNPO法人アニマルサポート高知家。2019年から活動を続けており、動物愛護に関する多岐にわたる活動、支援の思などを代表の吉本さんにお伺いしました。

まずは話を聞くこと、そして現地へ行くことから

アニマルサポート高知家には県内全域から相談が寄せられます。そのひとつひとつに対しては訪問し入れられた犬猫、なかにはビニール袋に入れて遺棄されている目を覆いたくなるような状況を目の当たりにすることも。そうした状況に対して丁寧な話を聞き、警察や医療機関など必要な機関と連携をとりつつ、保護から譲渡会までの支援へとつなげていきます。



譲渡会とフード出店を合わせたイベントを年に一回開催

「飼いきれない」「そんな現状も...」

飼い主が十分に世話をできる数を超えた結果経済的にも苦しくなりペットの飼育ができなくなることを「多頭飼育崩壊」といいます。多頭飼育崩壊になる方は精神的、経済的な問題を抱えている場合が多くあり、これまで10件近くのサポートを行ったケースもいもどかしさを感じることがあるとあります。

保護活動ではなく動物愛護活動

アニマルサポート高知家では、譲渡会のサポートや、正式譲渡までの預かりボランティア、ミルクボランティアなど、たくさんの方々の協力を得ながら活動しています。正式譲渡が決定した犬や猫が幸せな生活を送っている様子を見ることが一番の喜びであり、励みになるそうです。



吉本由美さん



ホームレス夜回りに参加する学生の様子

助け合う社会へ

新たな取組として、10月からは「普通の暮らし」を体験し、生活をやり直すチャンスにつながる「テップハウス」の運用をはじめました。この場所をスタート地点に生活困窮者支援を軸とする地域づくりを目指していき、居場所づくり、生活支援、就労支援、地域交流等につなげていくことを目指しています。



代表の田中きよむさん(左)と吉村歩華さん(右)

相談の連絡があればすぐにかけつける！

高知市の職員として長年福祉分野に携わり、民生委員の活動を身近に感じてきた島元さん。退職から1年後には民生委員になり、特別養護老人ホームや知的障害者施設の施設長、顧問、理事も歴任しながら、以来16年以上活動を続けている。

民生委員としては北本町の一部と江陽町などを含む江ノ口東地区の250世帯を担当しており、その活動の中でご近所同士のつながりの希薄化や地域のお年寄りの孤立化が進んでいることを肌で感じるという。家族間での会話も少なくなっていて、一つの家庭内で問題が複合化することもあるそうだ。

近年では生活保護に関する相談から介護保険やひきこもりに関するものが増えていて問題は複雑化する一方。家庭内で問題が発生していても当事者がそのことを周囲に知られたくないという気持ちであることも多く、SOSを見逃してしまうこともあるそうだ。民生委員の立場としては家庭内に踏み込むのは難しく、行政や警察、児童相談所との連携が必要だという。

島元さんは、「お年寄りが孤立化してしまう前に、地域内でしっかりと交流を持つことが大切」と力をこめていう。江ノ口東地区の小学生と敬老会の総勢160名が同じバスで遠足にでかける「ふれあいバスツアー」は、「気持ちが若返る」と楽しみにしているお年寄りがたくさんいる。昨年からは近隣の江ノ口地区と連携して、ハロウィンなどの行事を共同で行う取り組みをはじめた。遠足は今年は感染症拡大防止のために中止になってしまったが、来年は再開したいという。

民生委員が不足しているなか、次の担い手を見つけることも島元さんの仕事のひとつだ。前歴は関係ない、人のために何かしたいと思う人ならだれでも民生委員に向いているという。やりがいは感謝の電話や手紙をもらえることだそうだ。

忙しく活動を続けている島元さんの息抜きは、小学生の頃から続けてきた囲碁。その腕前はねんりんピックの出場選手として2回選ばれたほど。

「上達の秘訣は楽しく打ち、実戦を積むこと。客観性やバランスが必要で実生活でも大いに役に立つ」

頭をずっと使っている、集中していたらあっという間に時間は過ぎる。相談の連絡をいつでも受けられるように、携帯を片手に今日も囲碁を打っている。



時計回りにバスツアー、囲碁センター、ハロウィンパーティの様子



シニア世代の皆さんが
生きがいのある
セカンドライフを送るための
参考となるような、
県内でいきいきと
地域活動をされている
皆さんをご紹介します。



佐川かわせみクラブ

めざすは次のねんりんピックで優勝です！

「佐川かわせみクラブ」は佐川町で20年続いている、グラウンド・ゴルフを楽しむ会。60代から90代の総勢30名近いメンバーが週3日間にわたり町内の公園で集い、ワイワイガヤガヤと練習をしている。

コースは9ホール。公園のグラウンドに旗が付いた専用のボールを立ててコースをつくり、4～6人のグループに別れてボールを打っていく。ロングホールでは力強さが、カップ狙いの時は緻密なショットが求められ、グラウンドの土や草の様子も踏まえたコントロールも必要だ。

いざプレーが始まれば3,000歩以上は歩く。ボールを打ってはスコアカードで採点し、採点しているうちに次の打席だから、頭も体も使う。

メンバーにグラウンド・ゴルフの魅力を聞くと、「はじめてゲームをする人でもホールインワンが決まったり優勝できたりするのに、これは簡単なゲームだよと思いはじめた途端にスランプに陥ったりして、一筋縄ではいかない。とにかく奥が深くて面白い！」とのこと。私たち編集スタッフも試しに1コース打たせてもらったが、なるほどパッと決まったり外したりと、なかなか面白い。

休憩時間は仲間との交流が何よりも楽しい時間。お菓子やお芋を持ち寄ってみんなで食べたり、畑で育てた野菜などを配ったりする。練習後もお茶をしに行ったりと、交流は尽きない。公園は他の団体も使っているの、予定が合わず使えないときは他の市町村のグループと大会を開いたり練習で行き来したりしているそうだ。

「合間に情報交換もできるし、ゴルフがある日はサッサと用事をすませて早く行きたいと思うがね。生活にリズムとハリができるがよ。」

5～6年前からは公式試合にも出場し、年25～30回程度対外試合を実施している。今年度開催予定だった「ねんりんピック岐阜大会」へも出場が決まっていた(新型コロナウイルス感染症拡大防止で中止)。

精力的に活動する代表の澤村さんの今後の目標は、「これからもできることはどんどん取り入れていきたい。会員数も増やして、いつまでも佐川かわせみクラブを継続していきたい」とのこと。興味がある方は、ぜひ一度のぞいてみてほしい。





WEBふくし総合フェアを配信中!
<https://kochi-web-fukushifair.com/>

福祉・介護業界の“今”をさまざまな視点からご覧いただけます。
 イベントによっては締切がありますので、詳しくはホームページをご参照ください!



①ノーフティングケアの情報発信
『持ち上げない、抱え上げない、引きずらない』ノーフティングケアがもたらす、福祉・介護業界における業務効率化や魅力について、セミナーやポスター発表などを通じて発信します。

②第19回高知ふくし機器展
最新の福祉機器や補助具をご紹介します。
総合相談:12月11日(土)、18日(土)
両日共に10:00~16:00
※事前予約制/最終受付15:00

③令和3年度 第2回ふくし就職フェア
高知県内にある約50の福祉事業所の法人概要やPR動画、求人情報を一斉配信します。福祉業界での就職を考えている方必見です!
オンライン面談:12月10日(金)~11日(土)
両日共に10:00~16:00※事前予約制

④第12回こうち介護の日
こうち介護の日ポスター・作文コンテストの受賞作品をご紹介します

[問合せ先]高知県福祉人材センター
 TEL: 088-844-3511
 FAX: 088-821-6765
 E-mail: jinzai@pippikochi.or.jp

高知県社協からのお知らせ



若者サポートステーションで出張相談会開催!!



働くことに不安を感じ、一歩が踏み出せずにいる概ね15歳から49歳までの方、及びそのご家族やお知り合いの方などを対象に、各市町村で出張相談会を開催しています。
 事前申込は不要で、相談料も無料です。日時、開催場所は、ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

[問合せ先]こうち若者サポートステーション
 TEL: 088-844-3411
 E-mail: saposute@pippikochi.or.jp
<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/saposute/index.php>

二宮康公さん (37)

プラットフォーム VOL.2

特別養護老人ホーム 介護課課長 作業療法士

歳 を取っても障害を持って生まれても、どこで暮らしても、その人らしく安心して生活が送れるような高知県にしたい。そんな想いのもと毎年1回、ふくし交流プラザで開催されている「高知ふくし機器展」。

この機器展の実行委員長を2010年から現在に至るまで11年間にわたり務めているのが、日頃は宿毛市の特別養護老人ホームで作業療法士として、介護課長として働く二宮康公さんだ。

福祉機器展との出会い

二宮さんがこの仕事に興味を持ったのは高校生の頃のこと。親戚のお見舞いに行ったときに看護師さんの対応に魅力を感じ、卒業後の進路のひとつとして医療職を考えたようになったのはじまりだ。う。まもなく母親がリウマチに罹患すると、母親のように手を動かさにくい人の生活を手助けする自働具を作ることもある「作業療法士」の存在を知ったのだそう。

高校卒業後は、リハビリテーションの専門学校に進学。卒業後に高知市内の病院で働き始め、その夏には病院の先輩から「高知ふくし機器展」にスタッフとして誘われ、翌年には先輩のあとを引き継いで自動具ブースのリーダーにあればあれよという間に就任。

「周りは年上ばかりの中での突然のリーダー役。最初は仕方なくやっている部分もありました。」と

二宮さんは振り返るが、いろいろな人とつながっていく中で、機器展に関わる様々な人の想いや情報発信の大切さを感じ、徐々に自発的に関わるようになっていったそう。

福祉機器展に育てられた

「福祉機器展の目的は、第一に当事者やその周りにはいる家族や職員さんへの機器に関する情報発信があり、第二にセミナーやポスター発表を通して各ケアについてこうあるべきだという啓発活動を行うこと、第三に機器展の活動を通してスタッフの人材育成というのがあります。普段、医療福祉現場で働いているスタッフは、この機器展という職場外の対外的な活動を通して福祉機器のことだけでなく社会的な事も学ぶことができ、これが人材育成に繋がっている。自分も機器展に、この11年間でずいぶんと言われたという気持ちがあります。」と二宮さんは言う。

外部の人との対外的なやりとりや、リーダーとしてチームをまとめ、目標を達成していく喜び。また、毎年同じように機器の展示をしているのではなく、年間を通してそれぞれのブースが勉強会等を行い、最新の情報を得てそれをまた機器展を通じて多くの人に広げていくというふうには、グレードアップを重ねる機器展を作り上げている実感。これらは、学校や病院では学ぶことのできないかけがえない経験だという。

インターネットで保険料試算できます

しせつの損害補償

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の
事故・紛争円満解決のために!

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

基本補償(賠償・見舞)		賠償金額	
▶ 保険金額		▶ 年額保険料(掛金)	
賠償事故	基本補償(A型) 見舞費用付補償(B型)	定員	基本補償(A型)
身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	1~50名	35,000~61,460円
財物賠償(1事故)	2,000万円	51~100名	68,270~97,000円
受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
うち現金支払限度額(期間中)	20万円		
人格権侵害(期間中)	1,000万円	基本補償(A型)	【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円
身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	保険料	
徘徊時賠償(期間中)	2,000万円		
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中) 500万円		
	被害者対応費用(1名につき) 1事故10万円限度		
	傷害見舞費用		

スケールメリットを活かした
**充実した補償と
 割安な保険料
 です。**

プラン2 施設利用者の補償
 プラン3 施設職員の補償
 プラン4 社会福祉法人役員等の補償

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護賠償責任保険、雇用債行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事) 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

理想を現実に

「機器展があるおかげで、年を取っても障害があっても暮らしやすい高知になってきたよねと胸を張って言えるようになった」といいます。



この11年間で、福祉機器を積極的に活用しているところとする病院や施設が増えてくるなど、変わってきている実感もあります。

以前は「手間がかかる、やり方が分からない」となかなか受け入れてもらえなかった移動用リフトも、今は「患者さん・利用者さんのため、職員のため」ということで導入する病院・施設は増えており、高知県全体としても「ノーフティングケア(持ち上げない介護)」を推進していく動きがある。

二宮さんたちの活動の積み重ねにより、「年を取っても障害を持ってでも安心して生活が送れる社会」の実現は、少しずつ実を結びつつあるようだ。



今年第19回高知ふくし機器展は、WEBふくし総合フェアの中で配信しています。
<https://kochi-web-fukushifair.com/>





高知県内の市町村 社会福祉協議会ご紹介①

果敢にチャレンジ しています！

北川村社会福祉協議会

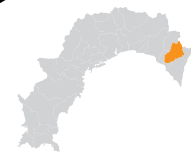
北川村は人口1200人を切る小さな村です。
地形は南北に広がっており、
村社協から片道1時間以上かかる集落も。
そんな北川村で、住民の暮らしやつながりを支える
社会福祉協議会の取り組みをご紹介します。

地域の多世代交流の拠点 小規模多機能施設「ゆずの花」

土砂災害の多い北川村では、道路の通行止めにより中山間の集落が孤立してしまうことがたびたびあり、多くの住民の方が不安を抱えていました。「災害から住民を守る施設が必要」という強い思いで社協が役場と協議を重ね、構想10年、ついに地域の交流拠点「ゆずの花」の建築実現に至りました。

災害時の宿泊だけでなく、遠隔地に住む高齢者の通院や、介護のため自宅を改修する際の仮住まい、帰省した家族の宿泊など、幅広い住民ニーズに対応しています。

また、交流スペースは床暖房、オープンキッチンなどを兼ね備えており、絵本コーナーやボルダリングなど子どもたちの遊びも充実。親子で楽しみながら過ごせる多世代交流の場となっています。木材の優しい香りと差し込む温かい光が、自然と「ここに来て良かった」、と感じさせてくれる、安心できる居場所です。



令和元年にオープンした
小規模多機能施設「ゆずの花」



福祉的バスの運行

中山間地域の移動手段確保は、県内どの地域においても共通の課題で、北川村も例外ではありませんでした。村内を運行していたバス会社の撤退が決まったとき、村営バス運営の委託について社協に打診がありました。免許を返納し移動手段がない高齢者にとって、バスは生命線。村民の暮らしを守るため、平成24年より社協が村営バス運行業務を受託することとなりました。

運行を始めると見えてきた新たな課題も。今まで歩いていた自宅からバス停まで、バス停から病院までの歩行が困難な高齢者が増えていたのです。この問題についても役場に働きかけ、平成29年10月より、自宅前から病院前、ドア・ツー・ドアの福祉的バスのデマンド運行を行っています。さまざまな事情を抱える村民にとって欠かすことのできない移動手段として活用されています。



社協はなんでもできる！

今ある資源を最大限活用し、最小限の負担でサービスを実現している北川村社協。「できない」ではなく「どうやったらできるか」を考え、実現に移してきました。坂本事務局長は「想いがあったら、社協はなんでもできる。想いを大事してほしい」とお話してくれました。



北川村社会福祉協議会職員の皆さん

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉 375-1 県立ふくし交流プラザ内
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852
E-mail plaza@pippikochi.or.jp

<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>



ふくし交流プラザへの交通のご案内

[お車でお越しの方] 高知駅より車で約20分、高知ICより車で約30分、
伊野ICより車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。
駐車場：普通乗用車で約180台駐車できます
[公共交通機関でお越しの方] 最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ

